

一般入試前期A日程1日目

国語

I

出典 会田雄次『日本の風土と文化』

ルネサンス研究を専門とする歴史学者が書いた日本文化論です。本文はやや長いですが、日本人を主題としており難解な表現もありませんので、文意を掴むのは難しくありません。

問1【漢字の書き取り・読みの問題】（解答番号は①～⑤）

全問正解は受験者の7%でした。正解が最も少なかったのは「焦土」でした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は⑥・⑦）

空欄Ⅰは1行後の「社会的に健康な方向へ」が、空欄Ⅱは1行前の「古いという言葉が、悪い、だめになった」がヒントとなるでしょう。正答率はそれぞれ19%、70%でした。

問3【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑧）

傍線部Aの次の段落をよく読めば正解はすぐわかるはずです。正答率は76%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑨）

傍線部Bの直前及び2つ前の文をよく読めば正解は導けます。正答率は43%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑩）

傍線部Cの直後の一文及び1つ前の段落をよく読みましょう。正答率は68%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑪）

執着心が強くなったことは4つ先の段落に書かれておりこの段落の最後の一文がヒントになります。全受験者の38%が③を選択しましたが、「反動が起きた」が本文の内容に相違します。正答率は25%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑫）

1つ前の段落をよく読みさえすれば正解が得られるはずです。正答率は35%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑬）

同じ段落の最後から3番目の文に気づけば容易に正解できます。正答率は73%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑭）

傍線部Gの直後の一文を読めば正解は明らかでしょう。正答率は79%でした。

問10【指示語の内容を考える問題】（解答番号は⑮）

1つ前の段落をよく読みましょう。そこに正解が書かれています。正答率は45%でした。

問11【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑯）

3つ前の段落を丹念に読みさえすれば正解に導けます。正答率は44%でした。

問12【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑰）

1つ前の段落を十分に読み込めば正解を導くのは容易です。正答率は46%でした。

問13【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は18）

正答率は3%でした。この節で著者が主張しているのはヨーロッパと異なり日本では固有文化が少しも伝承されていないということです。④を選ぶ誤答が目立ちましたが、物資の蓄積の観念を欠いていることと「物資の蓄積を欠く観念」は異なります。

問14【内容合致問題】（解答番号は19・20）

正答率は⑦が55%、⑨が26%でした。①や③を選択している受験者が散見されましたが、①は「空襲を受けて」が、③は「農民人口に対して五～六%の比率にのぼる」が本文の内容と相違します。②は「『よい』という意味が込められており」が、④は「いずれも美術品として扱われる傾向が強まっていく」が不適切です。⑤は「ベルツ博士は…を見出した」が、⑥は「無責任にも」が、また⑧は「客観的な意見の重要性に気づいた明治政府」が本文の内容と違っています。

II

出典 金子元久『大学の教育力』

大学と大学教育のあり方について論じた本です。出題箇所では西欧における大学の成立を2つのタイプに分け説明しています。論旨も明快ですから、文意を理解することはそれほど難しくはないでしょう。

問1【漢字の書き取り・読み問題】（解答番号は21～27）

a 構想 b 部署 c 整然 d 萌芽 e たき f 概観 g 迷走 がそれぞれ正解です。

基本的な漢字ばかりですので、書き取りは同音異義語を中心に出题しました。概観を外観、迷走を冥想（冥想）と書いている人が多くいました。文脈で判断する力をつけましょう。「多岐」の読み問題は大半の人が正解していました。

問2【文脈把握による空欄補充】（解答番号は28～30）

空欄ⅠとⅡは半分以上の人が正解を選んでいたのに対して、Ⅲの正答率は16%にとどまり、誤って「近代」を選んだ人が最も多かったようです。

空欄Ⅰは1行後の「工兵学校」がヒントです。空欄Ⅱは1行前の「前述のように」がヒントで問題文冒頭の「専門的な職業人」や「専門職業人」から正解を導くことは容易でしょう。空欄Ⅲについては「復活した」に相応しい言葉を探すことが大前提で、該当箇所では古代ギリシアに起源をもつリベラル・アーツが特に近代のイギリスにおいてカレッジという独自の展開を見せたことが主旨ですから、近代以前の時代・時期に関連する言葉を探する必要があります。リベラル・アーツの起源に関する説明で「紀元前のギリシア」やまさに「原初的」という言葉がヒントとなります。

問3【文脈把握による空欄補充】（解答番号は **31**）

正解は①です。空欄直後の「検証することによって真実に近づく」がヒントです。そのためにはまず「既存の知識を疑う」ことが必要になります。「真実に近づく」ために②の「確実な知識」まで「疑う」必要はないでしょうし、⑥の「不確実な知識」をいくら「観察」したところで「真実」には近づくことはできません。それ以外の選択肢は文脈にそぐいません。正答率は54%でした。

問4【文法問題】（解答番号は **32**）

今年度入試から導入された新しいタイプの問題で正答率は32%でした。「連体詞」は数が限られていますし、品詞分類は中学・高校の学習内容ですので、それぞれの役割や特徴を確実に押さえておきましょう。

問5【語彙理解】（解答番号は **33**）

正解は⑧です。正答率は59%でした。なお、③に関しては「如実に物語る」という表現がありますが、「如実」は「現実のとおり、ありのまま」という意味で明確に意味が異なります。

問6【文脈把握と理由説明】（解答番号は **34**）

直前の「自律的な知的探求を阻む、…そこから」がヒントです。正答率は72%と多くの人ができていました。

問7【文脈把握と内容理解】（解答番号は **35**）

正解は③です。直後の「もっとも古い起源をもつ」がヒントです。正答率は44%でした。

問8【文脈把握と内容理解】（解答番号は **36**）

④だけが「カレッジ」ではなく「リベラル・アーツ」の説明です。正答率は40%でした。

問9【内容理解】（解答番号は **37**）

正解は⑦です。問題文12ページに「言語三科（文法、修辞学、弁証法）および数学四科（算数、音楽、幾何、天文学）からなる自由七科」というかたちで正解が明記されているにもかかわらず、正答率は60%でした。

問10【文脈把握と理由説明】（解答番号は **38**）

正解は④です。①、②、③の後半部分は本文には書かれていない内容、⑤に関しては「ガリレイ、ニュートン、ロック」たちが「カレッジに入学」してこなかったとは書かれていません（ちなみに、彼らは当然大学やカレッジで学んでいます）し、⑥に関してはカレッジで「探求の志向が蔑視されていた」とまでは書かれていません。正答率は57%でした。

問11【内容理解による小見出し選択】（解答番号は **39**）

正解は②です。問題文第二段落以降の内容から正解を得ることはそれほど難しくはないでしょう。正答率は32%でした。

問12【内容理解による小見出し選択】（解答番号は **40**）

近代のカレッジを主軸に「リベラル・アーツ」が歴史的にどのように展開されてきたかが述べられている箇所ですから、正解は⑥です。正答率は41%でした。

問13【内容合致】（解答番号は **41**）

正解は③です。「探求志向と古典志向」の箇所の内容を正確に理解できていれば、正解を得るのは容易でしょう。①は「歴史と自然科学を幅広く学ぶ一般教養」が問題文には書かれていませんので間違いです。④は問題文第二段落の内容から誤答になります。その他の選択肢は、該当箇所を注意深く読めば正しくない内容であることが分かるでしょう。正答率は43%でした。